

令和5年度 第三回神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和6年3月14日(木) 16:00~17:30

場所 鎌倉高等学校 国際理解ホール

出席者(敬称略)

(委員) 田邊克彦、青木弘、永野征男、瀧澤博、末次健治、齋藤貴、菅野喜八、川中典花、
渡辺晃、岡田雅彦

(事務局) 岩崎幸代、椿みどり、長谷川千栄子、伊藤剛、石川比呂子、永山悦子、千葉大介、
佐藤靖彦、土谷優子、稲葉啓太、喜納悠大

議事録

【校長挨拶】

- 県立高校は改革で平成28年度からスタートした県立高校改革で、令和6年度から9年度がⅢ期目にあたる。このⅢ期が改革計画の最後の期にあたる。
- 学校改革が終わるわけではないが、一区切りという段階にある。
- 今日のご意見を踏まえて鎌倉高校の改革に務めていきたい。

【学校運営協議会の開催にあたって】

第二回学校運営協議会の議事内容の確認

- 令和5年度学校目標・課題について確認した。
- 令和6年度からの新たな課題設定について案を示した。

【協議】

[報告]生徒意識調査結果(令和4年度・令和5年度)

○佐藤総括教諭

- 学校意識調査の結果において、学習に対する意識は高く、特に明確な答えがある、受験対策につながる学習に対して意欲を示している。
- 一方で、明確な答えがないような問いに対しての学習意欲はそれに比べて高くない。
- 学習意欲を、課題に対する探究へとつなげていき、身に付けた知識を受験だけではなく、学問や探究的な学びへとつなげていく必要がある。
- 進学後も活躍できる力を身に付けることができるかが重要と考えている。

○齋藤委員

- 大学では本当に明確な答えのない課題に向き合う研究などが必要である。社会に出て活躍する力をぜひ身に付けられるようにしていただきたい。

①令和5年度学校教育計画（実施結果）

○教務グループ

- 生徒による授業評価アンケートの結果をもとに、各教科で検討する機会を3回設定した。
- 一人1台端末に関して、PCを何に使うかについて考えていく必要がある。公開研究授業の際に指導主事からいただいた助言をもとに、生徒同士の意見の共有などの効果的な活用について校内で研究を進めていきたいと考えている。

○永野委員

- 資料について、総合的な探究の時間を軸にということは、課題研究につながっていくという認識でよいか？

○教務グループ

- その通りである。

○斎藤委員

- 教育の質を落とさないように、授業改善を行っていること、それらが組織的に行われたことは評価すべき点である。
- この取組を次年度以降も継続し、定着するように努力していただきたい。

○田邊委員

- 教科またはそれぞれの職員の中での受け止め方はどうか。

○教務グループ

- 教科会を経て、情報を共有し、授業改善に向けて知恵を出し合っているところである。
- 教科内にとどまらず、教科を横断して共有できるような取組を続けていきたい。

○青木委員

- 確実に結果を出しているなど実感した。確実に結果を出せた要因を教員同士で共有できているか。また、大学に合格するために研究をするのか、探究をするために研究をしているのか。
- 探究的な学びの実践を積極的に行ってきた生徒は、成績も伸びるという相関関係はすでに示されている。
- 小・中学校での取組も踏まえながら、連携していく視点も取り入れていくとよい。

○生徒会グループ

- 行事について、ほとんど前期に終えており、アンケートでは8割の生徒が行事に満足しているという評価だった。
- 来年度に向けて、「入学式」の企画や、連携において「対面式」で藤沢支援学校鎌倉分教室の生徒と合同で行うこと等を計画している。
- 引継ぎを重視している。昨年度の反省をふまえて今年度改善をしてきたことが、よりよい行事の運営につながっている。

- 田邊委員
 - 部活動の実績はどうなっているか。
- 生徒会グループ
 - 弓道部がインターハイ出場、アメリカンフットボール部が関東大会出場、室内楽部が全国高校文祭に出場するなど、活躍している。
- 田邊委員
 - 現在の新型コロナウイルスの感染症影響は現在どうなっているか。
- 生徒会グループ
 - 文化祭の後に感染拡大したということもあったが、感染対策に努めながら活動している。

- 生活指導グループ
 - 毎週学年およびグループにて、生徒情報の共有を行い、学年から2名ずつ選出されているコア会議は隔週で行い、対応の検討を行ってきた。
 - かながわサポートドックを2回実施した。
 - スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの来校日が増えたことにより、積極的な連携することで、支援の幅が広がった。
 - 今後も相談しやすい体制や連携体制の構築に努めていきたい。
- 田邊委員
 - サポートドックについて、相談に結び付く事例はどれぐらいあるのか。
- 生徒指導グループ
 - プッシュ型の面談をすることで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなげることもできた。
 - これまで見えなかった、自覚していなかった生徒を見つけることができた。
- 渡辺委員
 - 相談件数は多いのか。
- 生徒指導グループ
 - 後期になると相談件数は増える。1月においては20件ほどだった。
 - 人間関係などで悩みを抱える生徒が後期になると増える傾向は毎年ある。

- キャリア支援グループ
 - 生徒が第一志望を貫きとおせるようにと支援を行ってきた。結果としても第一志望を目指して最後まで頑張った生徒を多く輩出できたと考えている。
 - 難関10大学や国公立大学の合格数も過年度比較で増加している。
 - 職員の理解を得て、学年一丸となって生徒の第一志望を応援することができた。

○永野委員

- 新課程入試に向けた情報は、生徒にどう周知しているのか。

○キャリア支援グループ

- 進路集会等を通して、生徒に情報を提供している。
- 大学の発表はまだアウトラインのみのところも多いが、予備校などから資料提供を受け、生徒にも還元しているところである。

○永野委員

- 新課程入試と生徒の学習内容がリンクしていることが重要だと考える。
- 入試は教科書に準拠しているので、教科書の分析も行って生徒に情報を流してほしい。

○渡辺委員

- ここ数年生徒の傾向が変わってきて、国公立受験者も増えてきており、第一志望を受験しようと頑張る生徒も増えていることが見えてとても嬉しい。この調子で指導を続けて行ってほしい。

○田邊委員

- 第一志望を貫く指導によって、生徒の気持ちに変化があったかどうかを、どうにか指標として表せないか。

○キャリア支援グループ

- 第一志望を貫くことで、目標を定めて頑張るということを有意義に思っている生徒の話も多く聞く。
- 卒業時にアンケートもとっているが、卒業式の際にはまだ一部の国公立の結果は出ていない。

○川中委員

- 保護者の立場から見て、子どもは苦手科目を一生懸命やることによって、その教科の楽しさに気づくことができた。そのきっかけを与えてくれた鎌倉高校に感謝している。

○管理グループ

- 地域貢献活動を再開することができた。
- 地域での活動を進めていき、ホームページで発信していく機会を増やしていきたい。
- 防災対策についても、予定通り年間2回の避難訓練を藤沢支援学校鎌倉分教室と合同で実施することができた。
- 鎌倉消防署の協力のもと、教員向けのAED講習会も実施した。

○長谷川教頭

- ICTを活用した業務改善を行った。

- 月 80 時間を超えるような時間外勤務をしている職員もいるため、個々に声かけをするとともに業務改善のための工夫をしていきたい。

○永野委員

- D I G訓練では具体的にどのようなことを行っているのか。

○管理グループ

- 地震を想定した活動を行っている。
- 来年度以降は、より具体的な状況を想定した避難訓練を実施していきたいと考えている。

○末次委員

- 訓練は繰り返し行っていただきたい。
- 災害の情報は、各機関からいろいろ出されている。
- 防災の正しい知識を得る方法についても学んでいただきたい。

○青木委員

- 鎌倉という土地は、学びの材料が非常に多いと思う。
- オーバーツーリズムや防災、歴史等の課題が、様々な教科の学びにつながっていく。
- 生徒が何のために学ぶのかという必然性があると、学びのモチベーションになる。
- 以前鎌倉高校は総合学習のモデル校であった。またモデルになってほしい。

○菅野委員

- 津波が来たときは七里ガ浜小学校が避難所となっているが、住民としてそれは現実的でないと考えている。134 号線を超えるような津波が起きたときには地域の住民の安全を考えた避難方法を考える必要がある。
- 生徒・職員はもちろん、地域の住民の安心安全を考慮した避難についても、学校で考えてほしい。

○岡田委員

- 七里ガ浜小学校が指定の避難場所になっているが、実際には鎌倉高校にも避難者が来ることが予想される。
- 実際に大きな災害が起きたことを想定して検討を進めていきたい。県の施設としても受け入れの体制は整えつつあるが、具体的なことまでは詰められていない。

②「学校教育計画（令和 6 年度～令和 9 年度）」

学校教育計画「4 年間の目標」に対する取組の達成度評価総括表

○岡田委員

- 鎌倉高校は理数探究推進校、学力向上進学重点校エントリー校である。
- 資料に基づき、様々なご意見を賜りたい。

○田邊委員

- 4 年間の取組をどのように変えていったのか。

○岡田委員

- 教科横断・文理融合という目標を掲げた。
- 外部連携については、SSH申請に向けた取組を意識しているが、そうでなくても非常に効果的なものであると思う。

○田邊委員

- 難関大学への合格という目標はいかがか。

○キャリア支援グループ

- 先を見据えてキャリア的な視点を盛り込んだ。

○青木委員

- 難関大学の進学実績は大事なことであるが、ただ有名な大学を目指すだけでなく、それぞれの進路実現を見据えた幅広い支援についても盛り込んではどうか。

○キャリア支援グループ

- すべての項目をまとめたものが学校の目標であり、縦割りになっているわけではない。一人ひとりのキャリア実現という目標を掲げているところから読み取っていただきたい。

○岡田委員

- これらを踏まえて、令和6年度のグランドデザインを作成していきたい。

○瀧澤委員

- 生徒意識調査の中で鎌倉市の課題を解決したいという生徒が少ないことに関して、まだ鎌倉市の情報を発信していくことが不足しているのではと思った。
- 今の市の現状について、市が抱えている課題を発信し、解決したいと考える生徒を増やしていけたらと思う。一緒に解決できたら嬉しい。

【事務局から】

○岡田委員

- 1年間の任期における御協力、御支援に感謝する。
- 鎌倉高校の卒業生や、地域、大学とのつながりを大切にしながら学校教育を進めてまいりたい。